

# とままえ

10  
No.578



風かおる  
人が輝き  
躍動するまち



## まちひと百景

### スポーツの秋 町民マラソン大会

第32回目の町民マラソン大会が開催された。本町のスポーツの大会で30回を数える歴史ある大会は、このマラソンとソフトボールしかなくなってしまった。参加者も一時は300名を超えていたものが今年は216名に。参加者は減少したが、親子が手をつなぎ走る姿や我が子を応援する両親の姿など、ほのぼのとした光景が見られた。

- 苫前町議会だよりNo.77…2～5
- 防災訓練実施される…6
- 盛り上がったBBBBライブ…7
- 成人講座 野菜の栄養と保存…8
- まなびの情報…9
- 健康ばんざい…10
- 長寿医療制度ガイド…11
- 国民年金…12
- 平成20年度決算に基づく  
苫前町健全化判断比率及び資金不足比率について…13
- 住まいる情報…14～15
- ちびっこギャラリー…16

苫前町  
議会だより  
合併号

### まちの人口

人口/3,719人 (男/1,735人 : 女/1,984人)  
世帯数/1,658世帯 (9月30日現在)

URL:<http://www.town.tomamae.lg.jp>

苫前町議会

2009

議会報発行特別委員会

# 議会だより

# 10

No.77

苫前郡苫前町字旭37番地1 TEL64-2385

委員長	猫島 優
副委員長	西 大志
委員	青木 幸隆
	渡部 一男
	小倉 哲
	田沢 志
	収

## 平成21年 第3回定例会

### 一般会計補正額 4億6,695万円を追加

### 総額37億2,998万円

平成二十一年第三回定例会は、九月十七日開会され、町長提出の予算五件、条例五件、人事一件、報告二件、承認二件、その他四件、議員提出の意見案二件をいずれも原案どおりに可決した。平成二十年各会計決算については決算審査特別委員会に付託し、同日閉会した。

#### 地域活性化・経済危機対策事業一覧（総額2億6,203万円）

- 古丹別地区地域集会所解体等整備事業
- 役場庁舎外壁改良事業
- 役場車庫オーバースライダー取替事業
- ホームヘルパー活動用車両購入手業
- 商店街プレミアム地域振興券発行事業
- 新日本海地域交流センター老朽箇所改修事業
- 道の駅看板設置事業
- ななかまどの館老朽箇所改修事業
- 海水浴場デッキ改修事業
- 港団地解体等整備事業
- 学校情報通信技術環境整備事業
- 小中学校トイレ改修事業
- 小中学校図書整備事業
- 公民館ボイラー等取替事業
- 公民館屋上防水改修事業
- 苫前町福祉センター改修事業
- 郷土資料館資料燻蒸処理対策事業
- スポーツセンターボイラー取替事業
- 旭昭和線道路災害復旧事業

国民健康保険特別会計	1,819万円追加	総額 6億1,620万円
簡易水道事業特別会計	82万円追加	総額 2億6,459万円
下水道事業特別会計	2,000万円追加	総額 2億9,735万円
老人保健特別会計	179万円追加	総額 317万円

#### 主な議案と質疑

##### 〔人事〕

・伊藤信行氏（岩見）を教育委員として再任することに同意した

##### 〔条例〕

・指定管理者の指定の手續きに関する条例の一部改正

・土地開発基金条例を廃止する条例

##### 質問 西 議員

・行政財産使用料条例の一部改正

政権交代により国の第三次補正一部凍結内容が不確定の中で条例改正しても大丈夫なのか。

##### 答弁 山田総務財政課長

国、道と連携を図りながら条例改正、予算執行に努める。

##### 質問 西 議員

・地域集会所施設設置条例の一部改正

##### 質問 西 議員

古丹別地区地域集会所（旧児童会館）の今後どうなるのか。

##### 答弁 泉 社会教育課長

集会所を現在まで利用していたのは古丹別幸楽会だけであった。その他の団体等は公民館を利用しているのが現状である。

##### 〔一般会計補正予算〕

##### 質問 青木議員

各学校のトイレ改修について洋式トイレへの変更箇所はどのようになっているか。

##### 答弁 白府教育管理課長

各学校のトイレを一部洋式化するもので、改修箇所は学校の希望に添いたい。

##### 質問 林 議員

旭昭和線道路災害復旧工事を繰越明許にした理由は。

##### 答弁 加藤建設課長

工事期間三ヶ月と見ており冬季に渡る施工であることから繰越して雪解けを待つて完成させるため。ただし、今年度中には通行可能としたい。

##### 質問 阿部議員

港団地解体移転に伴い居住者の移転後の家賃などについて説明願う。

##### 質問 阿部議員

港団地解体移転に伴い居住者の移転後の家賃などについて説明願う。

##### 質問 星 建設課長補佐

改修工事については、二戸を予定し、改修に伴う家賃改定などの説明はしている。しっかりと取り組みたい。

##### 質問 林 議員

新日本海交流センター看板設置について説明願いたい。

##### 質問 林 議員

道の駅の看板設置であり、国道より見えやすい位置に設置し、センター正面の賑わいを演出してフラッグをつける予定である。

##### 答弁 平井企画振興課長

小学校デジタルテレビ購入費について二校で二十台とあるが、現在の台数及び、状態、設置の効果について伺う。

##### 質問 林 議員

普通教室は全て、特別教室は一部の設置であり、目的はアナログテレビの入れ替えだけではなく、高画質、高音質の映像により興味関心を持たせ学習意欲の向上に繋げたい。

##### 答弁 白府教育管理課長

普通教室は全て、特別教室は一部の設置であり、目的はアナログテレビの入れ替えだけではなく、高画質、高音質の映像により興味関心を持たせ学習意欲の向上に繋げたい。

# 一般質問

財政

耐震診断

新型インフル

## 3氏が登壇!

### 財政健全化の行方は?



猫島議員

自治体財政健全化法に照らし、の苦前町の財政の現状と見通しは。

一 町税、国保、介護保険、町営住宅使用料、上下水道料金などの収納進捗状況と見通しは。

二 自治体財政健全化法に照らしての財政指標四項目の二十年度、二十一年度の目標値は。

### 答弁 森町長

一 二十年度の町税(現年度分)は収入歩合九九・六%で一定の水準を確保できたと思う。税負担の公平性を損わない行政への不信感や納税意識の減退につながりかねないことから、関係法

令に基づいた適切な滞納処分を行い、なお滞納している人には行政サービスの停止を検討するなど引き続き公正かつ厳格な徴収事務を行う。

二 実質公債費比率は二二・一%と前年度から〇・三%低下し、早期健全化基準の二五%をかるうじて下回ったが地方債協議制度で定められた基準の一八%を大きく上回っている。公債費負担適正化計画の推計では、二十一年度二〇・四%、計画期間が終了の二十四年度は一三・二%の見込みだが、試算の条件に一般会計の起債借入額を毎年五千万円としていることや、普通交付税の増減も影響することから、決して楽観視できないと認識している。



### 子供達の教育環境整備はどうなる?



青木議員

わが国でも、地震防災対策特別措置法が昨年六月に改正され、震度六強で倒壊の高い学校、施設の補強工事に対する補助や耐震診断の公表が義務化された。町内の小学校は建設後約四十年が経過しているが、町は住民に防災マップを配布、各学校が避難場所として指定されているものの、耐震審査を受けず危険があることから、当町は今後どのように考えるのか。将来統合する時期を待つのか、計画を樹てるのか町民に示めされたい。

### 答弁 森町長

小学校は築三十七〜四十年が経過し老朽化が進み、補強だけでは耐震化が難しい。

生徒数の減少に伴い、長期的な視点から「適正な規模」での学校の在り方、適正な配置を検討する時期に来ている。現時点では、耐震化や政策には多額の費用がかかることから、学校の規模、配置の方向性、財政状況を見て段階的に整備を進めていきたいと考える。

### 新型インフルエンザについて



青木議員

新型インフルエンザの対応について一部、国の指示が確定していない。準備期間の短い中での対応は混乱を招くが今から予想される状況に応じた準備が必要である。

一 教育関係は学校、学級閉鎖など文科省からの指示が出ていくと思うが、保育園は厚労省管轄であり、対応に違いはあるか。

二 ワクチンの国内増産に容器の大型化を考えられているが集団接種が条件。この対策を取り易いのは小規模の自治体で、一般町民にも希望を取り集団接種出来ないかを検討すべき。

三 対策をとらずに感染者が拡大した時の国保会計への影響も考慮し、多くの人が接種できるように負担軽減も検討すべき。

### 答弁 森町長

一 学校の目安と同様な対応になると考える。臨時休業の決定は保育所(園)を設置する法人が行うことになるが、保健所や医療機関などとの連携をとりな

がら進める必要があり、町としても指導、助言していく。

二 国での検討の優先順位については今月末に正式に決定されないことも想定されるが、今後の国の動向を十分に見極めながら集団による予防接種の必要性和可能性を検討したい。

三 軽減措置も優先順位等とあわせ検討していくとされている。具体的な実施内容が示された時点で、町の方針を定めたい。

いずれにしても、新型インフルエンザ対策に関しては、予防接種だけが感染防止、流行の阻止になるのではなく、日頃のうがい、手洗いなどの励行が感染予防対策として重要。症状のある場合には、マスクの着用、外出を控えるなど拡大防止に努めて欲しい。町でもチラシを配布し、役場、公民館、学校などへの消毒液の設置などの予防対策を講じている。今後も必要な情報を正確かつ迅速に提供するなど効果的な措置を図っていく。



# 委員会レポート

## 総務文教・産業厚生 町内視察課題検討!

**総務文教  
常任委員会** 平成21年9月3日  
開催

所管事務調査のため、町内視察を実施した。

◇消防署苦前支署

◇B&G海洋センター

◇夕陽ヶ丘ホワイトビーチ

◇苦前小学校

◇苦前中学校

◇野球場

旧町民プール跡地の立木伐採について、駐車場整備のため敷地内の電柱移設上、やむなく一部伐採したが、管理優先で関係課等との協議不足や地域住民に不快感を与えたことを受け止めて、今後は慎重に協議の上、残っている立木の処分を検討してほしい。

◇ななかまどの館

◇消防署古丹別支署

◇古丹別小学校

◇古丹別中学校

◆個人住民税の年金徴収に伴うエルタックス接続（地方税ホータルシステム）について

現在使用している文書交換システムでのデータ授受は二十二年十二月末までとなっており、

それまでの間にエルタックスへの接続移行が必要となった。助成金の申請の関係上、今年度中にエルタックスへの接続移行を行う。

◆理科教育設備等補助事業について

小・中学習指導要領の変更に伴い必要となる設備や老朽化した設備の更新を集中的に推進するものであり、理科設備の整備充実を図るものである。

◆古丹別小学校駐車場の整備について

当校前庭駐車場は経年劣化により舗装面がひび割れ、凹凸がひどく雨が降ると水たまりができ、児童の登下校時や来客駐車通行上の安全確保、教育環境及び景観の維持を図るため舗装補修をする。



◆町内中学校のグラウンド整備について

両校のグラウンドは風雨により表土が飛散流失、砂利等が露出し、土との段差が生じている。体育や部活動等グラウンド使用時の安全確保のため、塩化マグネシウム散布による表土飛散防止を図る。

**産業厚生  
常任委員会** 平成21年9月4日  
開催

所管事務調査のため、町内視察を実施した。

◇旭昭和線道路災害復旧工事

融雪により被災決壊した道路復旧について工事内容の説明を受けた。

◇道道羽幌原野古丹別（停）線水道管移設工事及び安全工事（川北地区）

◇流雪溝中央監視施設移設工事  
古丹別地区地域集会所（旧児童会館）の解体に伴い監視施設を旧支所に移設。

◇古丹別浄水場設備改修工事

老朽化した設備の更新等について説明を受けた。

◇道道苦前小平線水道管移設工事（九重地区）

◇水稲作況  
九重地区の水稲作況を確認した。

◇道道力屋九重線改築工事

進捗状況について説明を受けた。

◇古丹別地区下水道工事

一部工区に工法の変更と進捗状況の説明を受けた。

◇古丹別幸楽会集施設改修工事

古丹別地区地域集会所（旧児童会館）解体に伴い、古丹別地区地域集会所を利用して古丹別幸楽会の移転先として古丹別バスターミナル展示室を改修し、利用していただくことになる。

◆豆類乾燥調整施設（事業主体 苦前町農協）

今秋の稼働を目指し、工事の進捗状況を視察した。

◇大納言小豆作況

香川地区の小豆作況を確認した。

◇苦前漁港整備事業

年次で進められている苦前漁港の工事進捗及び、苦前漁港海岸の消波堤の設置について現状を確認した。また、実証試験を行っている雪氷冷熱エネルギーの現状を視察した。

◇港団地解体工事

老朽化が著しく懸案事項だった当団地の解体と居住者移転について説明を受けた。

◆豆類・小麦普通型コンバイン導入事業（事業主体 苦前町農協）

大豆等の作付面積の拡大に対応するコンバインを導入する事業

◆条件不利森林公的整備緊急特別対策事業

森林の立地、森林所有者の特性等による条件不利な森林において「苦前町特定間伐等促進計画」に基づき除間伐等を実施する。

◆ヒグマ駆除活動等に対する傷害保険等の加入について



ヒグマ駆除は苦前町猟友会に依頼しているところだが、従事者に対しての条件整備の必要性があり、傷害保険に加入するものである。

◆国営かんがい排水施設の漏水修理について

上平模範牧場内に埋設しているパイプラインが、電蝕により漏水しているのが確認され、修理を行う。

◆町道等清掃事業について

緊急雇用創出事業で、町道等の清掃や維持補修を行うため、失業者の雇用を条件に維持、整備を行う。



### 全員協議会

平成21年  
6月18日  
開 催

#### ●苦前保育園の入所定員の変更について

苦前保育園は、昭和三十五年開設以来、安定的な経営、運営により保育業務を担ってきた。近年の急速な過疎化、少子化の影響により年々入所対象の児童が減少している。この数年定員の六十名を大きく下回っている状況で、入所児童は増加する見込みなし。六十名の定員を四十五名へ変更し、運営の安定化を図りたい。

### 全員協議会

平成21年  
8月26日  
開 催

#### ●地域活性化、経済危機対策実施計画について

①実施計画書について  
臨時交付金制度要綱に基づき、本町の地域活性化に資する事業を「実施計画書」に登載し、国の交付金を活用し、事業を実施する。

#### ②国の交付基準

交付対象事業に要する費用のうち、実施計画を作成する自治体が負担する費用とする。

#### ③臨時交付金の限度額

経済危機対策臨時交付金の限度額は、一億九、五〇〇万円

#### ④国が示す事業項目

- ① 地域成長力の強化対策
  - ② 地域生活基盤の確保
  - ③ 低炭素社会づくりの等環境の保全
  - ④ その他雇用、子育て、安全安心確保等
- (以上の計画を踏まえて町より提出された事業は十九項目、その詳細は二ページを参照)

### 医療対策 特別委員会

平成21年  
8月27日  
開 催

#### ●苦前厚生クリニック経営損補償金等について

平成二十年年度の苦前厚生クリニック経営損失金額は四、八四五万円である。昨年度から全額町が補填することになっている。

#### ●二階部分の活用について

昨年五月より無床診療所へ転換、以後町は厚生連と有効活用について検討中である。

今般、有料老人ホームや認知症高齢者グループホームなどの概要説明がなされたが、入居希望の調査等をしたものではなく、利用料(入居料)等の負担も少額ではないため、活用についての検討を今後も引き続き行うこととし、これからの医療・介護制度の改正、政権交代等でのような形になって表れてくるか、今後医療対策特別委員会を

開催しながら、英知を結集して検討したい。

### 臨海地域 特別委員会

平成21年  
8月27日  
開 催

#### ①(株)苦前町振興公社平成二十年 度事業報告について

平成二十年六月に第九期定期株主総会、年十二回の取締役会議などを開催した。売上高は一億七、三〇一万七千円で、売上原価を差し引いた売上利益は一億一、九九六万七千円となり、一般管理費などを差し引いた売上利益はマイナスイ、五七六万七千円で、指定管理料などの営業外収益を入れて、当期欠損額は一、六四八万八千円であり、次期繰越の欠損金額は九、一九九万五千円となった。

#### ②苦前夕陽ヶ丘風力発電機(三 号機) 損傷について

六月定期点検実施中、発電機の回転中に異常な振動を確認。購入会社へ調査を依頼した結果、発電機の主軸が磨耗し、緊急に補修が必要となる。復旧費用は次のとおり。

発電機運搬作業費	四〇一万円
修理費	一三三万円
運 転 費	二三万円
合 計	五五六万円

## 届け意見!!

### 政府に意見書を提出

#### 「季節労働者対策の強化を求める要望意見書」

季節労働者の冬期間の雇用と生活を支えてきた冬期技能講習など、国の季節労働者冬期援護制度が廃止され、雇用保険法の特例一時金が四十日分に削減され、わずかな特例一時金で冬期間生活しなければならぬ。現下の厳しい雇用情勢では、冬期間の雇用がないばかりか、年間を通じての失業が広がっている。政府においては、抜本的な雇用失業対策が求められているが、季節労働者対策においても必要な措置を講じるよう強く要望するものである。

「道路の整備に関する意見書」  
道路特定財源は、今年度から一般財源化されたが、従来の地方道路整備臨時交付金に代わり「地域活力基盤創造交付金」が新たに創設された。

さらに、地方財政が極めて厳しい中、広域分散型社会を形成し、道民の移動や物資輸送など、大半が自動車交通に依存している本道では、必要な道路の整備が従来を超えるスピードをもって推進することが重要である。北海道の発展と豊かな道民生活の確保のため、生活の生命線である道路の整備を促進するための予算確保について、要望するものである。

## 編集後記

8月30日に行われた衆議院議員選挙において民主党が歴史的な勝利を取め、先の特別国会で鳩山総理大臣が誕生しました。国民の民意による圧勝でしたが、鳩山丸の船出は厳しいものがあると思われまますが、選挙公約で掲げた事項を忠実に実行してほしいと念願するものです。

マンネリ化していた長い自民政権下で国民の生活はどん底の状態であり、各企業の経営も大変厳しい状況にあるのはご承知のことだと思います。

「国民の生活第一」を掲げた民主党ですので、国民の生活が安定する施策を積極的に実行してほしいと念願します。自民政権での数知れない膿をきれいにするのに時間がかかり、すぐには結果は出ないと思いますが、「民主党に政権が移行してよかった!」と言われてほしいものです。

(田沢 記)

## 防災訓練実施される

九月六日(日)に本町で初めてとなる防災訓練が開催された。これは災害発生時における住民避難等を円滑に実施することにも、関係機関が緊密に避難所の設置や運営、住民広報、避難誘導などの訓練を行うことを目的に実施された。最近では七月に福岡県での大雨被害、八月に台風二十一号による兵庫県や岡山県での被害など多く自然災害が発生しており、まさに災害はいつ起こるか分からないことから、職員も気を引き締めて行われた。

訓練は、大雨による三毛別川の氾濫の危険を想定したものと、災害本部の設置や被害情報の伝達、避難準備、災害時要援護者支援準備などの訓練を実施した後、午後から実際に消防サイレンの吹鳴と広報車による巡回広報を行い、避難に協力していただいた住民の方の誘導などを行った。

訓練終了後は、北留消防組合・古丹別支署による救命救急講習会や防災マップ説明会、日赤奉仕

団による炊き出し配給訓練などが実施され、住民と職員の間で防災意識の高揚を図った。



協力していただいた住民にお礼を述べる森町長

## 高齢者のこれまでのご苦労をねぎらって

〔古前町敬老会〕

九月二日(水)午前十時三十分から公民館において敬老会が開催され、七十五歳以上の高齢者と来賓等あわせて百七十名が参加し、楽しいひとときを過ごした。

敬老会は長年、苦難の時代を乗り越えてきた高齢者の労苦をねぎらうため、毎年実施している。冒頭の挨拶で森町長は「皆さんの苦難を乗り越えてきた皆さんに改めて敬意と感謝を申し上げます。今日一日は飲んで食べて楽しく過ごしていただき、明日から元気で住みよい古前のためにご尽力いただきたい。」と感謝と参加者の健康を祈念した。その言葉に町老人クラブ連合会の白府義雄会長は「このような席を毎年設けていただき大変ありがたい。七十歳・八十歳は花盛りという心構えで過ごしていきたい。」と謝辞を述べた。

参加者は、用意された料理や飲み物を味わいながら歓談するとともに、古丹別保育所園児によるお遊戯や古前婦人会の舞踊、高齢者有志によるカラオケ披露などを楽しんだ。



## 古前幸寿園敬老会

〔社会福祉法人古前幸寿会(斉藤長蔵理事長)が運営する特別養護老人ホーム古前幸寿園でも〕

敬老会が九月十五日(火)に実施され、入所者とその家族、来賓等あわせて約百名が参加、入所者の健康と長寿を祝った。

斉藤理事長より「たくさんのご苦労があったと思うが、これから生き生きしていただきたい」との挨拶のあと、森町長、星野町議会議長より「皆さんのこれまでのご苦労に敬意を表するとともに、これからも健康で長生きしていただきたい。」と祝辞が寄せられた。

そのあと、園で準備した料理や飲み物を家族とともに談笑しながら味わった。

余興としてパラダイスちんどん屋による懐メロや南京玉すだれなどの演芸を鑑賞し、楽しいひとときを過ごしていた。



## シルバーパワー全開

〔高齢者ふれあいスポーツ大会〕

第三十五回目を迎えた高齢者ふれあいスポーツ大会が九月十一日(金)スポーツセンターで開催。約百三十名の高齢者が軽運動と交流を楽しんだ。この大会は、高齢者や障がいのある方の健康増進と相互の交流を目的に毎年開催されており、本年も日赤奉仕団、古前婦人会、ポテトの会などが協力団体として大会をサポートした。

会場に集まった参加者は参加意欲にあふれ競技も応援も元気がいっぱい。ポンポンをもって応援する方や、中には競技に力が入りすぎて勢い余って転倒してしまふ参加者も見られたが、いきいきはつらつとした姿が見られた。閉会式では、また来年元気でこの大会に参加することを祈念し、万歳三唱でしめた。



ケガもなく、笑顔あふれる大会となり、参加者も満足そうに会場を後にした。

## 奉仕活動を実施

〔食生活改善協議会〕

町食生活改善協議会(宮由紀子会長)が九月七日(月)に特別養護老人ホーム古前幸寿園(石川裕一施設長)において多目的ホールの清掃や窓ふきなどの奉仕活動と雑巾、清拭などあわせて五十枚を寄贈した。

この活動は敬老の日が近いことや本町の高齢化率が三四・六%と高く、高齢者福祉への貢献を図ることを目的に今年から実施された事業である。当日は会員十一名が参加し、石川施設長に挨拶の後、雑巾と清拭を贈呈し、九月十五日に予定されている敬老会の会場となる多目的ホールのステージ、床、窓などの清掃活動を行った。

同協議会では今後、高齢者の食事に視点を届ける活動を展開していくと意気込んでいる。



## 5年連続の公演

# ～盛り上がったBBBBライブ～

8月22日(土) 公民館において、BBBB (ブラック・ボトム・ブラス・バンド) のライブが行われ、ワッショイパワーが炸裂した。BBBBの公演は、平成16年から5年連続で行っている。

前日には、苫前商業高等学校においての芸術鑑賞会とライブ当日の共演のための羽幌高等学校吹奏楽局へのレクチャーなどを実施した。苫前商業高等学校の芸術鑑賞会では、最初は緊張していた高校生も演奏が進むにつれノリノリに。途中で楽器の紹介、実際にリズムを体験するコーナーや高校の校歌をジャズ風、ロック風など様々なジャンルで演奏するなどして生徒・教諭を含め楽しませた。



ライブ当日午前中には、苫前中学校・古丹別中学校吹奏楽部に共演に向けたレクチャーが行われた。その中では「体の力を抜いて、抜いて、抜く」とリラックスを強調するなどアドバイスを受けながら共演の曲を練習した。

ライブ本番の1部では、客席から入場のあと「ワッショイブギ」「ドラゴンフライ」などBBBBのオリジナル曲の他、舞台鑑賞友の会の松岡満雄代表が地元苫前町をイメージして作曲した「西海岸」という曲がBBBBのアレンジで発表されるなど、エンターテイナーぶりを発揮するとともに、パフォーマンスでも大いに会場を沸かせた。

2部では、苫前中学校・古丹別中学校吹奏楽部、羽幌高等学校吹奏楽局の総勢40名とBBBBの共演。モンゴル800の「小さな恋の歌」、ジンギスカンの「ジンギスカン」の2曲の他、アンコールとして「聖者の行進」を演奏。

最後は来場者、出演者が一緒に「ワッショイ!!」で締めくくった。



## 自分自身の目標に向かってGO!～町民マラソン大会新記録続出～

9月13日(日)に苫前商業高校前で町民マラソン大会が開催され、参加した216名全員が無事完走した。同大会は第32回目を数え、町民の体力向上と健康に対する意識を高めることを目的に毎年開催されている。

開会式で主催者である体育協会会長からは、「順位に入ることも大切だが、自分の決めた目標に近づけることが一番大切なので、皆さんも定めた目標に近づけるようがんばってほしい」と挨拶があった。そして古丹別中3年堀純平くん、苫前中2年原野未来さん、苫前小6年小林太郎くん、古丹別小学校6年久保杏奈さんの4名による選手宣誓のあと競技がスタート、親子の部から一般の部までの17部門が1キロ、2キロ、3キロ、5キロの4つの距離に分かれ、そのキロ数ごとにスタート、順位を競った。

今回の大会では、親子、小学1年女子、小学2年男子、小学2年女子、小学3年男子、小学4年男子、小学5年女子の部の7部門において新記録が達成された。

結果については次のとおり。(各部門1位のみ掲載)

部 門	氏 名	学校・所属	タイム	部 門	氏 名	学校・所属	タイム
親子の部	工藤蓮士・慎也	羽幌町	4' 11" 63	中学男子	熊倉 紳 吾	初山別中	19' 12" 64
小学1年男子	瀬川 永 夢	古丹別小	4' 27" 12	中学女子	福 田 レ ナ	古丹別中	12' 53" 76
小学1年女子	高 田 佳 歩	苫前小	4' 14" 98	一般男子	大矢根 諒	苫前商高	18' 17" 36
小学2年男子	工藤 颯 汰	羽幌小	3' 59" 95	一般女子	白 幡 真 琴	古丹別	18' 23" 60
小学2年女子	池 田 朱 桜	羽幌小	4' 02" 69	オープン競技			
小学3年男子	横 野 稜 平	苫前小	8' 09" 39	リレー	チーム大矢根 (大矢根 諒、芳賀 博史、逢坂 拓人、工藤 了輔)		
小学3年女子	黒 田 侑 里	古丹別小	9' 13" 78				
小学4年男子	平 井 廉	古丹別小	8' 09" 64				
小学4年女子	岩 田 来 千	苫前小	9' 12" 30				
小学5年男子	前 川 至	古丹別小	13' 19" 95				
小学5年女子	金 子 真 彩	苫前小	8' 14" 86				
小学6年男子	福 田 怜 也	古丹別小	12' 43" 80				
小学6年女子	久 保 杏 奈	古丹別小	8' 49" 49				



留萌管内の図書ボランティアや一般住民を対象に絵本の読み聞かせの基本や心構えを学習する機会と絵本の魅力を再認識することを目的に、九月十四日(月)公民館において絵本の読み聞かせ講習会が開催された。この事業は、文部科学省の子ども読書応援プロジェクト事業の子ども読書地域ボランティアリーダー育成事業に本町が申請、採択、実施されたもので全四回のうちの今回が第一回目。講師は、「ちいさなえほんやひだまり」代表の青田正徳氏で日本国際児童図書評議会などに加入、絵本に関する講習会等に数多く講師として招聘されている。講演では、読み聞かせは子どもに読んであげることではなく、絵本に書いてある世界を伝え一緒に共有、共感することと説明。さらに読み手自身が楽しむことが重要で、そのことが子どもとの楽しい時間や生きていく喜びを共有することにつながるかと話していた。また、「はじめてのおつかい」などの絵本を読み聞かせをしながら、絵本のめくり方やタイピング、音量などについて説明を行った。参加者も次第に青田さんの絵本の世界に引き込まれ、まるで子どものように真剣な表情や笑いにあふれた2時間を過ごしていた。

絵本の読み聞かせ講習会  
「絵本それは未来への架け橋」

## 成人講座

# 「野菜の栄養と保存」

8月26日(水) 苫前福祉センターにおいて成人講座「野菜の栄養と保存」が開催され、約30名の住民が参加した。同講座は、成人の学習機会として趣味や教養などを深めることを目的に、通年で様々なプログラムにより開催されている。

今回「野菜の栄養と保存」の講師は、JA苫前町で営農部営農推進係長の山田唯勝さんで、日本ベジタブル&フルーツマイスター協会認定のジュニア・ベジタブル&フルーツマイスター(通称:野菜ソムリエ)の資格を持つ。この資格は、野菜や果物には、種類、旬の時期、保存方法、栄養価、食べ方などわからない部分も多いことから、それらの魅力をわかりやすく伝え、野菜と果物をもっとおいしく楽しんでもらうことを目的に平成13年10月に生まれたもの。山田さんはJA苫前町に勤務し、普段から野菜や果物と接し興味があったため、2年前の平成19年11月に資格に必要な資金(約13万円)は自費で負担のうえ、旭川市で行われた3日間の講習に参加、与えられた課題の提出をクリア、資格試験を受験し見事合格した。

内容が「野菜の栄養と保存」ということで町食生活改善協議会(間宮由紀子会長)と共催で行われ、同協議会では野菜を中心としたメニューを3品調理し、受付を終了した講座参加者に一口ずつ試食として提供するなどの試みも実施、参加者から好評を得ていた。

講話では、春から秋にかけて旬の野菜の順に説明、「アスパラガス」「トマト」などの野菜の栄養や効能、野菜の保存方法、その野菜の食べ頃そして、野菜を選ぶポイントと項目ごとにわかりやすく説明していた。参加者全員が女性であったが、今まで知らなかったこともあり、うなづきや思わず声が出てしまう人も。質疑応答でも「規格外野菜の栄養価は?」「カボチャの保存方法は?」など様々な質問に丁寧に答えていた。

最後に農協から旬の野菜が提供され、全員で試食、山田ソムリエより「苫前町で生産された野菜を再認識してもらおうとともに、野菜をもっとおいしくバランスよく食べてほしい」と伝え、終了した。



## お母さんも学びます ~ラッコクラブ~

9月2日(水) 公民館でラッコクラブが開催された。この事業は妊婦同士の交流を図り、出産に対する不安解消や親同士が交流することで育児不安やストレス緩和を目的に実施されており、今回は妊婦さん2人と乳児をもつ保護者10組が参加し、学習と交流を図った。

子育て支援サポーターが託児を担当、乳児をもったお母さん達は離乳食について意見交換と交流を行った後、離乳食を実際に赤ちゃんに試食してもらった。しっかり食べる子や中にはぐずってなかなか口にしない子もいたが、離乳食に関する質問や相談も行いながら進んだ。一方、妊娠中の方達は、妊娠期の身体の変化や胎児の成長についての講話の後、沐浴方法や更衣などを人形を用いて行った。沐浴では特に汚れがたまるおしりや首、わきやくびれ部分をしっかり洗うなど注意点を学習した。

ラッコクラブはお父さんの参加も歓迎します。今後は11月28日(土)と3月3日(水)の2回(それぞれ午前中)の予定です。対象となる方には後日お知らせします。



## 元気に育ってね! ~ヒラメ放流式~

9月14日(月) 苫前漁港新港において、(社)北海道栽培漁業振興公社、留萌開発建設部、北るもい漁業協同組合、留萌支庁北部地区水産技術普及指導所、苫前町、苫前小学校、苫前保育園、古丹別保育所、苫前地域マリナビジョン推進協議会が主催しヒラメ人工種苗放流式が実施された。

この放流式は、漁業資源の増加を図るとともに、小学生や保育園児に「作り育てる漁業」の大切さを学習してもらい、漁業への理解を深めてもらうことにより漁業の担い手育成を図ることを目的に平成8年から実施しており、今年で14年目を数える。

参加は、苫前保育園(青木久美子園長)藤組13人と古丹別保育所(川森のり子所長)青組9人、更に学社融合事業の一環として苫前小学校(八谷芳博校長)5年生19人が、体長10センチほどに成長したヒラメおよそ1000尾を海に放流した。放流は、子供用のバケツに3匹ずつ入れたものを職員から受け取り、一斉に放流したが、保育園児や小学生はいつまでも名残惜しそうに海の中を見ていた。その後の質疑応答では「ヒラメの眼はなぜ移動するのか」などの質問が小学生や保育園児から出たが、栽培漁業振興公社や水産技術普及指導所職員が丁寧に説明していた。

この事業と併せて港湾業務艇「ゆりかもめ」による漁港内見学や、保育園児は漁協冷凍庫の見学なども実施され、様々な体験ができた1日となった。



「元気に育って」と祈りながら放流する児童



ゆりかもめの乗船や冷凍庫の寒さに喜ぶ園児たち

